

た」云々の文句があり、また「自身の言語に譯する」云々の文句もあるのを知つて、一九一八年にこれについての論文を發表し、*arsi*といふ名はこのトクハラ語の譯者が自身の國語を呼んだものであること疑無いと見、屢々現はれるこの名はその國や國民の名稱であると説いた。こゝに於てか進んでこの名を歴史的に説明しようとする考が生じ、これをかのストラボンの記して居る *asioi* 及び *Trogus Pompeius* の記して居る *asiani* と同一名と見、而して後者に *Tochara* の諸王なる *asiani* 云々と見えるので *Tochara* は被征服者で *asiani* 即ち *arsi* は統治者であつたものと見、こゝに同一の語を一方に *Tochara* 語といひ、他方には *arsi* 語といふ理由を解釋し、更に進んでこの *arsi* といふ名は漢史の月氏の古音 *nat, not* に當るものであるとするのが、近時主として獨逸の學界に行はれて居る見解である。即ちマルクワルトが無理をして證明しようとした所を、*arsi* といふ語の發見に由つて、より滑かに論證しようとするものである。このことは我が石田氏^⑫や石濱氏に依つて既に我が學界に紹介せられたことであるから、詳しくは説かぬ。かく月氏を *arsi* と解することは果して當を得たものであるかどうか。以下時間の關係上、極めて簡単にこの問題に對する管見を述べて見たい。

若し前に述べた第一の問題に對する余の解釋、即ち甘肅地方から西移した月氏種族[○]については、それが大夏を撃つて之を臣とし、自からは嬌水^{アムダリヤ}の北に都を置いて王庭としたといふ記事以外には何事も知るを得ないと解することが誤らないならば、月氏を *arsi* 従つて *asi* と見るこの見解は到底成立しないものと謂はなければならぬ。何故ならばかゝる見解を施すについての根底と成つて居る考は、大夏の五翮侯は西移して來た月氏種族の建てたもので、月氏はこの後長く大夏を支配し、大夏即ちトクハラ[○]の佛教も、その治下に於て昌えたものであると認めることであ